

令和 8 年度 第 1 回大津市環境人育成推進懇話会 議事録

1	日時	令和 8 年 6 月 2 9 日（月） 1 8 : 3 0 ~ 2 0 : 0 0	
2	場所	大津市役所 新館 7 階 大会議室	
3	出席者	8 名 びわこ成蹊スポーツ大学 オーパルオブテックス株式会社 N P O 法人おおつ環境フォーラム 滋賀県シェアリングネイチャー協会 カワセミ自然の会 びわこ成蹊スポーツ大学 滋賀県小学校教育研究会 環境教育部会 幼稚園環境部会	※敬称略 中野 友博 山脇 秀錬 長崎 雄二 辻田 良雄 橋詰 幸喜 中川 宏治 澤村 幸夫 石川 亜耶
4	欠席者	1 名 大津こども環境探偵団エコリーダー	※敬称略 三谷 大樹

1 開会

2 環境政策課長あいさつ

3 座長あいさつ

4 議題

（1）構成員紹介

- ・大津市環境人育成推進懇話会構成員名簿について事務局より説明。

（2）大津市環境基本計画（第 3 次）中間見直しについて

（3）令和 7 年度環境に関する市民・事業者意識調査結果について

- ・資料「大津市環境基本計画(第 3 次)中間見直し論点整理」及び資料「令和 7 年度環境に関する市民・事業者意識調査結果について」を事務局が説明。

【構成員からの御意見・御質問】

●市民意識調査について

- ・令和 7 年度環境に関する市民・事業者意識調査結果を 2,0 0 0 人に配布し、どのくらい回答があったのか。前回と比べてどうか。

- ・回答率は46.2%で、回答率は前回と同じぐらいである。(市)

●中間見直しの概要(案)について

- ・大津市内の小中学生向けに環境学習の一環としてカヌーでヨシ帯を観察等する事業があるが、その人数は「大津環境人を育む行動計画」の活動指標である、環境保全活動年間参加者数に入っているのか。人数の多い学校であると1学年200人程いる。大津市内の小中学生の人数はそこに数えてもよいと思う。
- ・環境保全活動年間参加者数は、今まで限られた団体の活動しか計量されていなかったが、大津市内のボランティアを含めた多様な主体が行っている環境学習を含めることができれば、現状届いていない年間参加者数の解決に繋がると思う。
- ・教育委員会で校外学習の人数は把握されているのか。環境学習を行っている学校から環境教育部会や教育委員会へ報告していただいて、環境保全活動年間参加者数にその数を挙げてもらうことができればいいのではと思う。
- ・認識としてはヨシ帯を観察する活動は、学校教育での活動とされているのか。(市)
→校外学習でされており、カヌーでヨシ帯観察、ヨシを生かした工作をしている。
当初は教育委員会と事業者とで、それぞれで環境学習を行っていたが、カリキュラムの中に環境教育も含めたほうが良いとのことで、森林環境教育の「やまのこ」も入れようという経緯がある。同様に市立学校が校外学習で行っている環境学習も環境保全活動年間参加者数に入れてよいのではないかなと思う。
- ・学校の負担にならないよう、例えば年に1回聞き取りを行い、団体との連携を把握し整理することは、市が環境教育を推進する上で基本であると思う。
- ・「環境保全活動の推進のため大学と連携する」の対応として「過去の事例を参考にする」とある。大学では既に環境保全活動を行っているため、具体的な手段として大学に照会をするのもやり方の一つである。
- ・現状、市以外でこういった団体がどのような環境学習に関する活動をされているのか、全体像を掴みきれていない部分はある。(市)
- ・地域で森林活動をしている任意団体は「森づくりネット・しが」というサイトに登録されているので、このサイトのデータベースを使えば民間企業や団体に対して網羅的に情報を収集ができるのではないかな。
- ・目標や数値の達成にとらわれすぎず、現状を知るという意味で環境に関連する団体を把握するのは良いことである。手間はかかるが把握した上で、団体が多いのか少ないのかを考えられると思う。
- ・大学との連携だけでなく、民間企業との連携も、さらに進めていくことが必要であると思う。

●市民意識調査の課題について

- ・大津市では地域で熱心に環境活動をしている団体や学校が広く多くの方に取り上げられていないと感じる。草津市は、環境学習をしている各団体について詳細まで把握されており、年に1回活動を発表する場がある。発表の場があることによって相乗効果が起こり、環境への関心が高まっているように思う。大津市にも団体があるので発表の場を設け、関心を高める雰囲気を作ってほしい。
- ・幼稚園でも五感を通した教育を大事にしているが、限られた場所でどのように環境と関わりをもたせるか悩みもあるため、地域で活動している団体が分かると日々の保育に環境学習を取り入れやすくなる。実際に保護者の中にもそういった情報を知りたがっている方がおられるため、どこかにそういったコンテンツを入手できる場所があると、市民が情報を取り入れる機会ができるのではないかと思う。
- ・幼稚園と連携し地域で根付いた活動をしている団体がある中で、行政が的確な支援を出来ていない印象である。地域連携や課題解決に向けて、行政の支援が届くような仕組みが必要であると思う。
→まずは大津市で活動されている団体を把握し、行政として環境への関心を高められるよう取り組んでいきたい。(市)
- ・Webサイト「大津のかんきょう宝箱」は知っている人が少なく、投稿の仕方も難しいことから、利用する人が限られていると感じる。このサイトのように今あるものを生かせていないこともあると思う。

●学校教育での環境学習について

- ・熱中症やクマの問題があるが、各小学校教育課程に基づいて環境学習を行っており、教諭も夏休み期間に環境学習関係の研修をしている。また、各学校でテーマを決める「学校夢づくりプロジェクト」では、環境について取り組んでいる学校もある。学校現場では十分な環境教育は行われており、こうした取組の中で子ども達の環境を考える力はついてきている実感がある。
- ・基本計画の中に、見えない学校教育の取組をぜひ入れていただきたい。
- ・取組を一覧にするのも大事であるが、一覧の中に二次元コードを作成して具体的な事例が見られるとよいと思う。
- ・コミュニティ・スクールの活動が盛んな地域と、そうではない地域とで自然体験の差が起こることを危惧している。環境教育の視点からコミュニティ・スクールについて調べることで改善策が見つかるかもしれない。
- ・自然体験の差について、実際に自然を感じる事が理想ではあるが、バーチャル等で疑似体験するコンテンツがあれば役立つのか。(市)

→環境学習を補うことはできるが、自然体験をバーチャルで実現するのは難しい。
学校教育で自然体験の機会がない子ども達に対しては、家庭や地域を通して体験
できる機会や仕組みを考えていくのが大事だと思う。

- ・自然体験の機会という点では、地域で色々な取組がされているが、それが市民に伝わっていないことが課題であると思う。
- ・甲賀市では地域の文化祭で、子ども達を集めて生き物調べ等をしている。先程、教育の視点で意見が挙がっていたが、農業からもアプローチはできるかもしれない。

●市民意識調査の項目について

- ・環境に関する市民事業の意識調査の質問「現在、参加経験のある環境 保全活動は？」の選択項目「環境学習活動の企画・運営・支援」について、おそらく「企画」と「運営」があるため数値が低いように思う。一般の市民にとって企画と運営はハードルが高いため、「支援」あたりにハードルを下げないと数値は上がらないと思う。

(4) 指導者研修会について

- ・環境教育について知っていただきたいので、この指導者研修会に幼稚園の先生だけでなく小学校、中学校の先生にも来ていただきたい。
- ・本懇話会の構成員が見学するのは可能か。
→可能である。(市)
- ・各園に周知されているのか。
→保育園、幼稚園、小学校、中学校の先生方へ周知する予定である。(市)

(5) その他

なし

以上